

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ植えてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年6月15日 NO.22 (322)

早く植えたいよ。
ぼくの番、まだ？



このしせいって、
けっこうつかれるね。

こうやって苦労する
からおいしいお米が
できるのよ。ファイト！

5年生の田植えのようす

オー君 「あれあれ？5年生が何かやってるね。」

花ちゃん 「これは、きのうの5年生の田植えのようすですね。みんな楽しそうですね。」

モンタ博士 「田植えといえば、いつもは国立市の農業委員の人たちといっしょに、第三
中学校の近くに行っているね。」

オー君 「第三中学校の近くの田植えは、やめたんですか。」

モンタ博士 「そうではないんだ。第三中学校の近くの田植えを終えて、国立第七小学校
の田植えをしているんだよ。」

オー君 「そうですね。この写真は学校ですね。はじっこに池も見えますね。ぼく、
学校にたんぼがあるなんて知りませんでした。」

花ちゃん 「わたしもです。5年生のために新しくたんぼを作ったのですか。」

モンタ博士 「そうではないんだよ。フッタ博士が発見してくれたんだ。大発見だ。世紀の
大発見なんだ。モンタ博士は、ちっとも気がつかなかったんだ。」

花ちゃん 「そうですね。ここは去年、たくさんのコスモスがありましたね。」

モンタ博士 「コスモスはどこにでも植えられるけどね、田んぼがあるっていうことは、すばらしいことだ。20年～30年ぶりの学校の田植えなんだね。」

5年生 「自分たちで植えたイネが毎日見られるということは、すごいことですね。」

5年生 「成長のようすが見られるのはうれしいですね。」

5年生 「そうだね。雑草がでてくるかもしれないね。そんな時には、5年生みんなで雑草を取ろう。」

5年生 「そうしましょう。でも、イネって水の中で育つでしょ。水はどうするのかね。」

モンタ博士 「よく見てごらん。はじっこに水道の蛇口があるだろう。これで水の心配はなさそうだね。」

5年生 「本格的な田んぼなので、バケツ稲とはちがってたくさん収穫できるのかな。」

5年生 「そうだね。しっかりと世話をすれば、大収穫まちがいなしさ。」

5年生 「イネかりも自分たちでするんですね。」

5年生 「それも楽しそうですね。でも、台風が来ないか心配ですね。」

5年生 「それから、稲が実ってもスズメとかに食べられちゃうかも心配だな。」

5年生 「そうだ！みんなでスズメが来ないように、『かかし』も作ろう。」

5年生 「そうだ！そうだ！そうしよう。」

モンタ博士 「お米ができるまでにはいろいろな苦労があるんだよ。でも、それを毎日自分たちで見たり体験したりできることはすばらしいね。」

5年生 「いままでは、田植え体験といっても、田植えと稲刈りの2回だけしか田んぼに行かなかったけど、これからは毎日見られるんだ。」

5年生 「よし！ぼくは、イネがどのくらい大きくなるか、毎日調べて、そのようすを記録するぞ。」

5年生 「記録するだけではなくて、イネの背の高さなどを測って、表やグラスにしたらよくわかるかもしれないね。」

5年生 「そうだ！そうだ！そうしよう。『国立七小イネ』よ！大きくなあれ！」

5年生 「丈夫に育て！そして、おいしいおにぎりが食べられますように。よろしく。」